

## 第1回（仮称）学習文化交流施設基本計画検討委員会会議概要

【日時】平成24年6月25日（月） 13時56分～15時53分

### 【出席者】

委員：17名（欠席者：1名）

事務局：4名

コンサルタント：1名

### 1 開会（13：56）

### 2 委嘱状交付

### 3 市長挨拶

皆さまにはご多用中にも関わらず委員をご快諾いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃より市政の各般にわたりご支援、ご協力をいただいておりますことに重ねて深く感謝申し上げます。

（仮称）学習文化交流施設整備事業は、本市の芸術文化の振興や学習環境の充実、さらには子どもからお年寄りまで世代を超えた多様な交流活動を通じて、多くの笑顔を育み、地域に活力、にぎわいの創出につなげていくためのプロジェクト事業でございます。

平成20年度の市民を交えた中心市街地のまちづくりビジョンの策定からスタートし、ワークショップなど施設の整備計画に至るまで、市民の皆様のご意見やご提案を取り入れ、本市のまちづくりの理念である共動により検討を重ねてまいりました。

今年の1月には施設の基本設計が完了し、現在は実施設計に着手しているところでございますが、今年度中には建設工事に着手し、平成27年度のオープンを予定しております。

この施設が市民から愛され、多くの利用者で賑わう施設にするには、管理運営体制をしっかりと構築することが重要であると考えており、皆さまと一緒に管理運営基本計画を策定してまいりたいと思っております。

管理運営の検討に際しましては専門的なご意見もいただくため、大学の先生を始め有識者の方々、また、本施設の管理運営に関わる関係団体や利用団体の皆さまから幅広くご意見をいただきながら、将来にわたって効率的かつ効果的な管理運営体制の構築を図ってまいりたいと考えております。

皆さまにはそれぞれのお立場から特段のお力添えを賜りますようお願い申し上げます、私のご挨拶に変えさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

※市長は所用により退席。

#### 4 委員長の選任

(仮称) 学習文化交流施設基本計画検討委員会設置要綱第5条の規定により委員から委員長を互選することとしているため、谷津委員を事務局案として提出したところ異議無く承認された。

以後、委員長により進行。

#### 【委員長より】

管理運営ということで皆さんの活発なご意見をいただきたい。管理運営については鹿角方式と呼ばれるようないいものを作っていきたいと考えるのでよろしくお願ひしたい。

#### 5 案件

##### (1) (仮称) 学習文化交流施設管理運営基本計画の策定について

・事務局より資料1、資料2により説明。

#### 【質疑応答】

(委員) 管理運営基本計画は4つの施設を統括するものか。また市民ワークショップを開催するのは非常によいことだが、本委員会との関係はどのようなものか。専門家の意見と利用者の意見は必ずしも一致するものではないのですり合わせが必要となる。

(事務局) 基本計画は4つの施設全体の計画として整理したい。また、委員会とワークショップとの関係は、互いの意見をフィードバックさせるような仕組みにしたい。

(委員) この施設が完成すると従前の施設運営の考え方、サービスの提供の方法では物足りなくなってくる。非常に難しいかも知れないが施設に入る各団体が互いに連携、情報共有することが望ましい。

(委員長) ワークショップの内容は委員にも都度、もしくはまとめてでもいいから教えるのか。

(事務局) 開催の都度、委員にお知らせしたい。また、ワークショップと本委員会の内容は市民に対してもニュース、ホームページ、広報などで周知したい。

##### (2) (仮称) 学習文化交流施設の設計概要について

・コンサルより資料3により説明。

#### 【質疑応答】

(委員) 講堂に角度をつけた理由は何か。

(コンサル) 建物が真四角なのでデザイン上の変化をつけたかった。また、角度をつけることにより、西側の入り口を確保する狙いもあった。

(委員) 天井高はどれくらいか。また、照度はどれくらいか。

(コンサル) 基本は2.8mだが図書館は書架が2m程度あるので3.5m。ホールは8m以上確保している。照度は床面で500ルクスを確保する。

(委員) 現在の設計では移動図書館用の車庫や本を入れ替える作業用のスペースなどがいないため、将来の移動図書館に対応できないのではないか。

(コンサル) 移動図書館は十和田図書館で対応する計画と伺っているため、対応する設計としていない。

(委員長) 太陽光発電パネルは20kWとのことだが、施設全体の電力の何%程度まかなえる

のか。

(コンサル) 施設全体では400kW程度であるのでおよそ5%程度。

(委員) 耐震性など地震の対応について、仙台のメディアテークでは揺れも大きく大変だった。

本施設もガラス張りが多く構造が似たような施設であるので地震時は大変ではないか。

また、地震時に書架が倒れると危険であり、本が落ちても通路を塞ぐなど避難経路が確保できなくなる。書架の構造はどのようにするのか。

(コンサル) メディアテークは4階建て鉄骨造りであり、本施設は鉄筋コンクリート造りであるため、鉄骨造りに比べれば揺れは抑えられる。また、書架が倒れると大変危険であるため書架については床面に固定する。

(委員) 通路となりうる箇所については本が落ちない仕組みを取り入れてはいかがか。

(コンサル) 検討したい。

(委員) この会議で出された意見は実施設計に反映されるのか。

(事務局) 実施設計はとりまとめの状況にあるので構造に関わるような変更はできない。

(コンサル) 構造計算や確認申請などがあるので建物本体の構造は変えづらい。書架等備品などの仕様の変更程度は可能。

(委員) 展示スペースは文化財など展示する機会が多々あると思うが、それに対して空調設備などを備えているか。

(コンサル) 多少の調湿は可能であるが博物館や美術館レベルの空調設備などは想定していない。

(委員) 県立美術館から書画を借りて展示しているがそれなりの設備が無ければ貸し出ししない。文化財を借りて展示できるような設備を備えてほしい。

(コンサル) 文化庁の指針により運用面で対応が可能となるケースがある。そうした対応で検討してはどうか。

(委員) ホールの舞台には吹奏楽、合唱それぞれのキャパは何人程度か。

(コンサル) 吹奏楽は60人程度。合唱団の人数は計算していない。

(事務局) 演奏者と合唱団が同時に舞台上がることは容易でないため、座席の前2列を取り外し可能な構造としており、合唱団はそこで歌うことになる。

(委員) 演奏者なしで合唱団のみ舞台上がる場合は。

(委員) 音響反射板を組んだ状態で間口約8.7間で奥行きが約4間半あり、6尺(1間)四方の平台が6枚置けるため、1間当たり3人並べると考えると平台6枚で18人並ぶ計算になる。それを前後2列とすると36人乗れる計算となる。平台を6台並べられるのは良いことである。

(委員) 次の案件になるかとは思いますが、入念に準備したとしてもオープンすれば問題が必ず出てくるため、施設の引き渡しからオープンまでは十分な期間を取ってほしい。施設の完成から2・3ヶ月でこけら落としではまともな事業ができない。オープンまでは4・5ヶ月程度の期間はほしい。

(委員) 一般的に文化ホールにはロビーがあり、そこでお客さんのもぎりをするがどこでやるのかわからない。ベルトパーテーションなどで対応するしかない施設となっている。

(コンサル) ワークショップでできるだけ市民が広く使えるスペースがほしいとのことでホールにロビーは設けなかった。施設の用途としても興行を主とするものではなく市

民の発表する場を主としたものであるため、パーテーションで有料部分と無料部分を分ける方法をとることになる。

(委員) 有料・無料に関わらず人は列を作って並ぶものであり、どのように列を作って並ばせるかを想定していただきたい。有料催事はプロだけでなく芸文協や吹奏楽の発表もあることを考慮していただきたい。

(委員) 図書館の空調について、閉架書庫は独立して調整できる仕組みか。

(コンサル) 閉架書庫単独で調整できる仕組みである。閉架書架は吹き出し口は上からとし、閲覧室は天井が高いので下からの吹き出しとなる。

(委員) コンクリート壁では半年くらいは湿気が出るので、調湿性能を持った壁材もあるので事業費が増えるが検討してもよいのではないかと。また、開館までは4・5ヶ月の準備期間を設けた方がよい。現在の図書館とは全く規模が異なるので運営する側は容易でない。

### (3) 管理運営に係わる課題について

・事務局より資料4により説明。

#### 【質疑応答】

(事務局) 先ほど開館準備期間を長く設けた方がよいとの意見がございましたが、事務局としても開館準備期間を長く設けたいと考えている。平成27年度のオープンとしているが開館時期については明確にしているものではないので、今後意見をいただきながら検討していきたい。

(委員) 施設の目指す姿が明確でない。基本方針なりを打ち出して本会議で議論した方がよいのではないかと。

(委員) 鹿角市がこの施設に求めるもの、コンセプトのようなものを明確にしてほしい。

(事務局) 4つの施設がそれぞれに連携することで複合施設としての効果を発揮するものと考えている。ご指摘いただいたコンセプトについては非常に大事なものであると認識しており、ワークショップでも検討しながら委員会にフィードバックさせていきたい。

(委員) 市民の声だけを吸い上げてはうまくいかなる場合がある。例えば、参考資料にあるような「ゴミの持ち帰り」について、かつて某文化会館で同じことをしたが途中の公園に捨てていくといった問題が起きた。行政として一本筋の通ったルールは必要である。

(事務局) コンセプトについて議論いただいているが、各施設に対して現在の管理に関するヒアリングを行っており、課題を整理しているところであるのでコンセプトについては少し時間をいただいて、まとめあげていきたい。

(委員) ホールを全市的に使う場合の地域づくり協議会との関係をどうするか。また、鹿角市には美術品を展示する施設がない。本施設に期待したがそのような機能はないという。文化財などの収蔵場所についても考えなければならない。もう一点、共動というのがあるが、ボランティアを募集しても集まらない。年輩の人ばかりで若い人に期待できない。鹿角市全体に関わることだと思うのでどのようにクリアしていくのか。いい機会であるので市全体に関わる問題として、市役所各課で課題としてとらえてほしい。

- (事務局) 現状で各地区に地域づくり協議会有り、その点についてこの場で議論していくのは難しいと考える。今後、各協議会で議論が煮詰まってから全体の位置づけを議論していくのがよいのではないか。文化財については渋谷生涯学習課長よりお答えいただく。3点目のボランティアについてはご意見のとおり状況も見受けられるが、前回の国体のように市民ボランティアを巻き込んでいくのがポイントになると考える。
- (委員) 文化財については、現在は各所にありまとめて収蔵する場所はないが、委員会において意見を出していただけるのであれば今後の検討に役立つものとする。なお、本施設の2階に収蔵庫というスペースを設けているが一部の収蔵になる。また、美術館のような展示はできないと思うがある程度の収蔵は可能であるとする。
- (委員) 市民センター事務室が全館案内を担うことになると思うので施設すべてのことを理解していなければならないとする。また、管理を一体化する仕組みにしなければならない。清掃についても全館を一体的に行うべきであるし、清掃員の休憩場所を確保してほしい。
- (事務局) 管理・清掃の一元化については今後検討する。清掃員の休憩場所は1階に確保している。
- (委員) 先ほどコンセプトの話がでており、これから検討するとのことであったが、本施設は「賑わい創出」をコンセプトにして話を進めてきたように記憶している。「賑わい創出」を軸にして議論を進めてほしい。また、基本設計模型を各公共施設に展示して市民の目に触れさせたのは非常に良かった。そこで、愛称募集のスケジュールを少し早めて賑わい創出に結びつけてはいかかか。
- (委員長) 施設の形は見えているので愛称募集のスケジュールを早めることに賛同する。
- (事務局) 愛称募集については早める方向で調整させていただく。
- (委員) 先ほどボランティアが集まりづらいという意見があったが、新しい施設ができていくとそこがシンボルとなり人が集まりやすくなって変わっていくのではないか。また、この場で4施設について細々と議論するのではなくて各施設についての分科会を作ってそこで出された意見を委員会で議論するのがよいのではないか。
- (事務局) 本委員会を開催するにあたり、4施設について各管理団体ごとにヒアリングを実施したが、それを分科会ととらえ、各施設の課題を整理し委員会で議論いただきたいとする。
- (委員) 中仙市民会館ドンパルは市内の小中学生から募集。委員会レベルで決定。ロゴマークは美術工芸短期大学のグラフィックデザイン専攻の学生からコンペティションにより決定。決定まで4ヶ月の期間。
- (委員) デザインコンセプト(色・C Iなど)のようなものはあるか。
- (事務局) C Iはない。色についてはベースは白系統である。アクセントカラーとして金山や稲穂・花輪ばやし屋台の金箔をイメージした金色、りんごやナナカマドをイメージした赤、豊かな自然をイメージした緑がワークショップにおいて選定されており、効果的に使っていきたい。
- (委員) 最初の段階で管理運営のコンセプト・ルールづくりをしっかりとっておかないと5年後、10年後には施設内が混乱してしまう。

(委員) 施設の駐車場だけでは足りないケースもあり、街部の駐車場を使うケースが出てくると思うが、施設への誘導看板や細い道の整備などを考えているか。

(事務局) ホールでイベントがある場合は、敷地内の駐車場だけでは足りなくなることは想定される。その際は、近隣の駐車場を利用してもらい、商店街に回遊してもらうことも狙いとしている。駅から施設へのアクセス道路の整備を実施することとしており、誘導看板についてもスムーズな移動ができるように必要に応じて整備していきたい。

(委員) 4つの施設のうち「市民センター」について「花輪市民センター」としていないのには理由があるのか。また、花輪市民センターとしてではなく鹿角市の市民センターとしての機能を持つのが望ましい。指定管理の更新時期でもあるので鹿角市の地域づくり協議会として一本化し必要に応じて各地区に配置するといったやり方ができないか。

(事務局) 地域づくり協議会の組織の一本化は市民共動課と協議を行ってほしい。全市的な施設の位置づけとしては、本施設を使って各地域づくり協議会が合同して事業を実施するなど事業連携を通して役割を果たすことが望ましいと考える。

## 6 その他

事務局より次回開催は9月下旬～10月上旬であることを通知した。

## 7 閉会（15：53）